

## 8-4-18 交通・安全専門委員会

### 1. 主な活動の記録

#### (1) 交通・安全専門委員会の開催

委員会開催回数：10回

(令和6年8月、令和7年3月は休会)

#### (2) 自主研究

令和6年度は、『交通・安全分野における施策動向に関する調査研究』を主テーマに2つのサブテーマを設定し、交通・安全に関する技術向上と新たな市場開拓に向けて実施した。

自主研究はサブテーマ毎にワーキングを設置して進めた（【WG①：国の新たな施策】、【WG②：交通・安全分野の最新動向】）。

【WG①】では、国土・道路空間の観点から、道路の多機能化、能登半島地震等の防災、公共交通計画・地方創成、道の駅等に関する施策動向、交通・安全の観点から、次世代ITS、物流（2024年問題、人手不足）、観光（インバウンド・オーバーツーリズム）、新モビリティに関する施策動向、デジタル・データの観点としてDXの施策動向や関連事例等を収集・整理するとともに、想定される課題や建設コンサルタントの役割をとりまとめた。

【WG②】では、道路整備効果や新たな便益、渋滞対策や交通安全対策メニュー、交通シミュレーション、交通事故分析、社会実験の最新動向など、業務に直結するような事例や情報を収集・整理するとともに、今後の建設コンサルタントの役割をとりまとめた。

#### (3) セミナーの開催

「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドラインの改訂」をメインテーマとしてセミナーを開催した。

- a) 開催日：令和7年1月29日（水）
- b) 開催方法：WEB開催（ZOOMによるオンライン開催）
- c) 参加者数：約300名
- d) 講演①：国土交通省道路局自転車活用推進本部 自転車活用推進官 原田様より「安全

で快適な自転車利用環境創出ガイドラインの改定について」、警察庁交通局 交通企画課 課長補佐 梶原 様（代理 係長 杉山 様）より「自転車や電動キックボード等の交通ルール・罰則等について」として講演を頂いた。

#### (4) 最新関連情報の収集

交通・安全に関わるトピック的な事項について、今後の展開方向、建設コンサルタントとしての関わりなどを議論した。令和6年度における主な内容は以下のとおりである。

- a) 能登半島地震の被害と復旧状況（道路、上下水道等）について
- b) 高速道路の自動運転実験について
- c) AIの活用（交通量調査、交通渋滞予測）について
- d) 高速道路の工事交通規制時の交通状況分析結果について
- e) 道の駅の第3ステージにおける今後の方向性等について
- f) 自転車HIGHWAYの海外の整備事例・国内の整備計画について
- g) 自転車ガイドラインの改定内容について
- h) 社整審議会基本政策部会（WISENET、道路法改正）について
- i) 物流を取りまく最新の政策動向について

### 2. 次年度の活動について

令和7年度においても、交通・安全分野に関するテーマを設定し（自主研究テーマ検討中）、建設コンサルタントの関わり方について検討する予定である。また、研究テーマの内容に合わせてセミナー、現地見学会、フィールドワーク等を実施する予定である。

(交通・安全専門委員会委員長 永井 寿行)